

令和元年度 第8回人権教育学級

日時：令和2年 2月13日（木） 9：50～11：25

場所：別府市役所 5F大会議室

演題：障がい者と人権

～子どもの発達に寄り添う保護者になろう～

講師：社会福祉法人「とんとん」

理事長 田中 カヨコ さん 常務理事 田中 一旭 さん

講演概要

1 自己紹介

○田中カヨコさん

◇自己紹介

◇社会福祉法人「とんとん」の立ち上げ

- ・困っているお母さんたちを助けたいという思い。
- ・資金の調達は、「綱渡り」ではなく「糸渡り」だった。

○田中一旭さん

◇自己紹介

- ・「とんとん」関係の役職や資格の他にもたくさんの役職と資格を持ち、幅広く社会のために活動している。



<講師の田中カヨコさんと

田中一旭さん>

2 はじめに 学習の見通しと内容

○昨今の子どもを取り巻く社会情勢は厳しい。

虐待・ネグレクト・いじめ・不登校・非行・・・等

○赤ちゃんが生まれて、日々子どもは成長する。しかし、子どもは自然に成長するのではない。

① 子どもの成長には道筋があることを知ってもらう

次に、成長の中でのつまずきがある子どもに対して

② 社会における支援施策について知ってもらう

その上で、子育ての中での最近のトレンドである

③ 褒める子育てのための褒め方を練習してもらう

- ・社会の支援施策がビジネスにつながっているのを危惧している。
- ・子どものつまずきを知ってもらい、支援を受けられることを知ってもらいたい。
- ・褒める子育ては、子どもの肯定感を高める。

<本日の学習内容>

- ・子どもの発達を科学的に捉える
- ・福祉分野の支援制度
- ・子どもの発達に関する最近のトレンド
- ・ペアレントプログラム演習
- ・まとめ

3 子どもの発達を科学的に捉える

○子どもは生まれて成長する中でいろいろな力を獲得して発達します。

・典型的な発達

1歳	：つかまり立ちあがる	ちょうだいで渡す
1歳半	：片手支持で降りる	語彙3語
2歳	：両足跳び	小さな積み木を6個積み上げる
3歳	：円の模写 3数復習	言葉で名前と年齢を言える

(新版 K 式発達検査 2001 より)

- ・発達過程には個人差があり、早い遅いがあります。
- ・乳幼児健診は1歳半と3歳での実施が法律で定められている。

<成長発達での遅れや気づき>

- ・発語が遅い
- ・会話が噛み合わない
- ・子ども集団の中で相手に合わせない
- ・他児と遊べない
- ・集中が続かない
- ・落ち着いて過ごせない
- ・歩行獲得が遅い
- ・読むのが苦手
- ・書くのが苦手
- ・数字が苦手

アスペルガー症候群、LD（学習障がい）、ADHD（注意欠陥多動性障がい）など

4 福祉分野の支援制度（大分市の例）

○発達が気になる子どもが選べる福祉分野の支援制度

① 親子教室 1歳～3歳程度

- ・大分市地域療育等支援事業

② 医療機関での療育 0歳～就学前まで

- ・大分療育センター
- ・大分こども療育センター

③ **児童発達支援での集団療育 2歳～就学前まで**

・児童発達支援センター ・児童発達支援事業所

④ **放課後デイサービス 小学校1年～高校3年**

・学校の放課後から利用できる学童保育のような事業所

⑤ **発達障がい者支援専門員(SV)派遣**

・団体（学校・保護者会等）からの派遣依頼に対応
県内に230名いるSVの中から支援に適した人材が派遣される。
利用料金：無料（ただし、年間200件の回数制限あり）

5 子どもの発達に関する最近のトレンド

○良質な睡眠がとれていますか？

<睡眠が脳に与える影響>

睡眠は、記憶にかかわる⇒睡眠不足では、脳にある海馬の活性が著しく低下する。
睡眠不足による記憶に関する海馬に影響がある。
睡眠は、前頭前野の活動にかかわる。
睡眠不足の子どもが多動となる子がいるという研究もある。

○よい睡眠をとるために

手がかかり：光 食事 運動

良質な睡眠に向けて、夜しっかり寝て、朝日を浴びる⇒10時間を目安に早寝早起きの習慣をつくりましょう。

○子どもの愛着を育てる⇒子どもからの「甘え」に親からの「愛情」で応える

- ・物質的甘えには毅然と対応：おもちゃ買って
- ・情緒的甘えにはとことん応える：抱っこして
- ・自分でできるのに大人が手を出す → NG
- ・子どもができないことを手助けする → OK

他者との信頼関係の基礎は家族との信頼関係

→ 家族から愛され、家族を愛する関係の先に他者との信頼関係が築かれる。

子どもの自己肯定感を高める

→ 自分でやりたい、頑張りたいと積極性を持てる子どもは伸びる。

<褒める子育ての4つのポイント>

即時性：その場で褒める

多様性：褒め方を工夫する 言葉・ご褒美・名誉・・・

明示性：具体的に褒める、何が良い、より良くなるには

間欠性：適切な間隔で褒める 初めは毎回、後は時々

本の紹介 3歳～6歳の子育てハッピーアドバイス

① 自分の子どもの行動について3つに分けて書き出す

- ・いいところ
- ・努力しているところ
- ・困ったところ

<ポイント>

- ・行動で示す：「～しない」→動詞「～する」

(例) 明るいところ (形容詞) → 明るく挨拶する

だらしない (あいまい) → 服を脱ぎっぱなしにする

くよくよしない (～ない表現) → 気持ちが切り替えられる

- ・いいところは普段できていること 60～70%でOK

- ・当たり前のことや普通のことはNG

具体的に田中一旭さんのお子さんの ・いいところ ・努力しているところ ・困ったところの例を示し、イメージしやすくした。

② お隣さんのギリギリセーフを探す、特に「困ったところ」について

(例)

- ・おやつを食べすぎる → お菓子一袋を一人で食べきるだけ
- ・部屋の片づけができない → ゴミ屋敷にしているだけではない
- ・スーパーで走り回る → 外に出ずにそのうち戻ってくる
- ・おもちゃがほしいと駄々をこねる → 調子がいいと我慢できる など

お隣さんのギリギリセーフを探して、褒めてください。

<演習の順序>

○子どもの行動を捉える。

○否定的な視点(「困った子」「できない子」)→肯定的な視点(「ここまではできている」「子どもなりに頑張っている」)

○否定的な視点に見える行動が起きる場面を見極めて、回避へと繋げる。

○グループで複数回実施して、アドバイスしあい、共感しあうことで親自身の自己肯定感を向上させる。

説明を聞いた後、近くの受講者同士でペアレントプログラム演習を行った。

お隣さんとそれぞれの子どもについて褒める練習を行いました。

～ホメホメ大作戦～

子どものいいところ、努力しているところ、困ったところを記入用紙に書き出し、お隣さんと褒める練習をしました。演習をすることで子どもの多面的な見方・捉え方ができるとともに自身の自己肯定感の高揚にもつながりました。



＜ペアレントプログラム演習を行う受講者＞



＜ペアレントプログラム演習を見守る講師＞

- ・活発にペアレントプログラム演習を行う姿が見られました。活動を行うことで受講者の主体的な学びとなりました。
- ・活発に取り組む受講者の様子を見て、演習の時間を延長しました。

7 まとめ

○子育ては、親育て

叱る子育てではなく、褒める子育てをするための視点を持つ。

○子どもの発達を科学的に捉える

子どもは自然にできるようになるのではなく、段階を経ている。

○子育てにマニュアルはない

それぞれの子どもの中にしか答えはない。

○困った時は、専門家に相談する

Netで調べるのではなく身近な先生や保健師など専門家に相談

Netには情報があふれているが、必ずしも正しい情報とは限らない。困った時には専門家に相談するのが一番。

講演の後の班討議や全体交流は、時間の都合上、中止としました。